

編修趣意書

教育基本法との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
28 - 61	高等学校	芸術科	書道Ⅱ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
38 光村	書Ⅱ 308	書Ⅱ		

I. 編修の基本方針

編修の趣旨

生徒が書に愛着をもち、「自分の書」を広げることができる教科書を目ざし、次の点を柱に編修しました。

自分の書を広げる。

感じる

鑑賞・臨書教材では、原跡に迫る高精細な図版を掲載しています。「本物」から感じ取ることのできる書の真髄は、生徒の感性を豊かにし、表現と鑑賞の能力を伸ばします。

学ぶ

古典がもつ個性豊かな表情を味わいながら学習できる構成を目ざしました。学びやすさを追求し、達成感をもって取り組める構成は、生徒の主体的な学習姿勢を育成します。

考える

生徒が古典や名筆の鑑賞や臨書に基づいた表現を自ら工夫し、推敲を重ねながら、個性的な書の表現や構成美について考え、理解を深めます。

編修の留意点

1 書に親しみ、生涯にわたって愛好する心情を育成する。

- 楽しく学べる教科書を目ざし、書を身近に感じられる教材を取り上げ、生徒が主体的に学ぶことで自分の書に向き合えるように構成しました。

2 感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を育成する。

- 「書道Ⅰ」で培った能力を基礎とし、厳選された古典教材を学習することによって創造の根源となる感性を高め、表現力と鑑賞力を相乗的に培いながら自己表現へと展開できる内容を目ざしました。

3 書の伝統と文化についての理解を深める。

- 書の伝統と文化について、さまざまな角度からアプローチすることで、その理解を深めて文化に親しみ、次世代へ継承していく態度を育成することを目ざしました。

1. わかりやすく、学びやすい教科書

■ 学習の展開をわかりやすく示しました。

- 「漢字の書」と「仮名の書」の構成は、「文字の造形を学ぶ→構成を学ぶ→創作する」という、わかりやすく段階的な学習展開としました。
- 「漢字仮名交じりの書」は、「漢字の書」と「仮名の書」の学習を基礎とすることが明確にわかる構成とし、創作にあたっては、実践的なポイントをわかりやすく示しました。
- 古典教材は原寸掲載を基本とし、その特徴を損なわないよう、すっきりとしたレイアウトを心がけました。

2. 扱いやすく、学習に適した教科書

■ 中綴じ製本で扱いやすくなりました

- 開きがい製本によって、古典教材のレイアウトが見開き紙面で展開することが可能となったため、これまで以上に生徒の鑑賞に配慮することができました。また、二つ折りにもできるため、臨書の際に負担が軽減されます。

3. 個性豊かな表現力を伸ばせる教科書

■ 漢字と仮名の古典教材が充実しました

- 古典教材は質量ともに充実を図り、その取り扱いについては名品を羅列するのではなく、古典の何を学習し、どのような力を身につけるか、という目的を明確に捉えて教材を選び、個性豊かな表現力を伸ばすことができるよう配慮しました。
- 巻頭口絵ページにおいては、王羲之の名品と三色紙を複数掲載することにより、生徒自身が比較分析しながら主体的に鑑賞し、共通点と相違点を発見できるように配慮しました。

4. 鑑賞の能力を伸ばせる教科書

■ 古典図版や写真がより美しくなりました

- 古典教材は原寸掲載だけでなく、必要に応じて部分拡大で掲載するなど、必要に応じてさまざまな角度から鑑賞ができるように構成されています。
- また古典は、生徒の感性を高める大切な教材であるため、極めて鮮明で臨場感あふれる高精細の図版を掲載し、教材の価値を高めるよう追求しました。
- 臨書教材は全て原寸で掲載し、色調においても実物との校正を繰り返し、原跡に近づくよう追求しました。

5. 書の伝統と文化への理解を深める教科書

■ 書文化への関心を高める魅力的なコラムを満載しています

- 書文化や芸術への理解・関心を高めるコラムを随所に設定しました。生徒の視野を広げ、興味・関心を喚起できる内容を厳選して掲載しています。
- 巻末には、日中の書の歴史と文化を一覧できる年表を豊富な図版や写真とともに掲載し、両国が交流してきた長い歴史を感じながら、書を知ることができます。

Ⅱ. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	
<p>王羲之の書を鑑賞しよう 三色紙を鑑賞しよう</p>	<p>○口絵表には、世界各地に収蔵されている王羲之の名品を示し、口絵裏には、中国の漢字から生まれた仮名の名品である三色紙を集めて掲載することで、伝統と文化を尊重し、我が国を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うよう配慮した。【第五号】</p> <p>○また、それらの名品が各地の美術館等に大切に保管・展示されていることを示すことで、身近に存在する美術館の役割を意識し、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うよう配慮した。【第四号】</p>	<p>表2-p.5</p> <p>表2-p.5</p>	
漢字の書	<p>Ⅰ はじめに 漢字の書の個性豊かな表情</p>	<p>○甲骨文に始まる漢字の歴史、書体の変遷を示すことで、伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度が養えるよう配慮した。【第五号】</p>	p.8-9
	<p>篆・隸・草・楷を比べてみよう</p>	<p>○幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために、篆・隸・草の三書体を楷書と比較し、字形と用筆が理解できるよう掲載した。【第一号】</p>	p.10-11
	<p>Ⅱ 文字の造形を学ぶ 【篆書】 篆書の用筆、文字の形を見よう 篆書の多彩な表情を捉えよう 【コラム】 何のために書くのか？</p>	<p>○幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために、篆書の基礎古典を教材とした。【第一号】</p> <p>○伝統と文化を尊重する態度を養うために、「石鼓文」とそれを臨書した呉昌碩の名品、古代文字である金文と甲骨文を掲載した。【第五号】</p> <p>○古代から書かれたさまざまな書を紹介し、そこに見える個人の価値を尊重して、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うよう配慮した。【第二号】</p>	<p>p.12-13</p> <p>p.14-17</p> <p>p.18-19</p>
	<p>【隸書】 隸書の用筆、文字の形を見よう 隸書の多彩な表情を捉えよう</p>	<p>○公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うために、篆書から生まれた隸書の教材として、八分体を代表する「乙瑛碑」を掲載した。【第三号】</p> <p>○個性豊かなさまざまな隸書を示すことで、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う意識がもてるよう配慮した。【第一号】</p>	<p>p.20-21</p> <p>p.22-25</p>
	<p>【草書】 草書の用筆、文字の形を見よう 草書の多彩な表情を捉えよう 【コラム】 名品になった詫び状</p>	<p>○幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために、草書の基礎古典を教材とした。【第一号】</p> <p>○伝統と文化を尊重する態度を養うために、古典に基づく書を、伝統的な書式に沿った形式で掲載した。【第五号】</p> <p>○草書が日常に根付いていたことを理解させるとともに、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことへの関心を喚起した。【第一号】</p>	<p>p.26-27</p> <p>p.28-29</p> <p>p.30-31</p>
	<p>【行書】 行書の多彩な表情を捉えよう 【コラム】 北宋の三大家</p>	<p>○個性豊かなさまざまな行書を示すことで、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う意識がもてるよう配慮した。【第一号】</p> <p>○古の文化人の幅広い知識と教養を知り、生徒自らも真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う意識がもてるよう配慮した。【第一号】</p>	<p>p.32-35</p> <p>p.36-37</p>
	<p>【楷書】 楷書の多彩な表情を捉えよう 【コラム】 タイムスリップ書道史</p>	<p>○生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うために、個性豊かなさまざまな楷書のなかに世界文化遺産に登録されている龍門石窟を取り上げた。【第四号】</p> <p>○伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、遣唐使として中国に学んだ空海の書や同時代の唐代の様子を取り上げ、古来盛んであった両国の交流についても理解できるよう配慮した。【第五号】</p>	<p>p.38-43</p> <p>p.44-45</p>
	<p>Ⅲ 構成を学ぶ 芸術としての書を味わおう</p>	<p>○伝統と文化を尊重する態度を養うために、近世以降に書かれた古典に基づく書を、伝統的な書式に沿った形式で掲載した。【第五号】</p>	p.46-47
	<p>Ⅳ 創作する 座右の銘を書こう 【コラム】 日本文学に登場する能書</p>	<p>○創作活動では、幅広い知識と教養を身につけ、豊かな情操と健やかな身体を育成することにつながる題材を取り上げた。【第一号】</p> <p>○日本文学と書が密接に関連していたことを理解させることで、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことへの関心を喚起した。【第一号】</p>	<p>p.48-49</p> <p>p.50</p>

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
仮名の書	Ⅰ 文字の造形を学ぶ 高野切第一種 仮名の組み合わせによる表現の美を味わおう 平仮名・変体仮名一覧 古筆の多彩な表現を楽しもう	<ul style="list-style-type: none"> ○『古今和歌集』の写本である「高野切第一種」を掲載することで、千年という長い歴史の中で大切に受け継がれてきた古典に、古の文化人の幅広い知識と教養が表れていることを知り、また生徒自らも真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う意識がもてるよう配慮した。【第一号】 ○仮名の組み合わせの創意工夫を知ることにより、伝統と文化を尊重しながらも、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うよう配慮した。【第二号】 ○平仮名や数種の変体仮名を取り上げ、漢字から仮名が成立した過程における先人の創意工夫を知ることにより、伝統と文化を尊重しながらも、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うよう配慮した。【第二号】 ○幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために、書風の異なるさまざまな古筆を教材とした。【第一号】 	p.52-55 p.56-57 p.58-59 p.60-61
	[コラム] 伝称筆者と古筆	<ul style="list-style-type: none"> ○伝称筆者と古筆の関係を知ることにより、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことに配慮した。【第一号】 	p.62-63
	Ⅱ 構成を学ぶ 自然の景観を意識した構成の美を楽しもう 散らし書きによる空間の美を味わおう 用具・用材による表現の変化を楽しもう	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うために、先人が培ってきた仮名の構成美を教材に設定した。【第五号】 ○日本絵画の空間美を取り上げ、書との共通性を示しながら、創造性を培う大切さに配慮した。【第二号】 ○書の用具・用材である筆や紙、墨が果たす表現効果を教材にすることで、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う意識がもてるよう配慮した。【第四号】 	p.64-65 p.66-67 p.68-69
	Ⅲ 創作する 百人一首を書こう	<ul style="list-style-type: none"> ○創作では、書の伝統的な書式を重んじながらも、さまざまな素材や表現法を示すことで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことに配慮した。【第一号】 	p.70-71
	[コラム] やってみよう「墨流し」「ぼかし染め」	<ul style="list-style-type: none"> ○現代に伝わる料紙加工技術を身近な伝統工芸として取り上げ、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うよう配慮した。【第二号】 	p.72
漢字仮名交じりの書	Ⅰ 古典に学ぶ 古典の書風を生かして書こう	<ul style="list-style-type: none"> ○書には用美の二面があることを意識させるため、書とその基になった古典教材を取り上げ、自らも自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うよう配慮した。【第三号】 	p.74-81
	Ⅱ 創作する ふるさとを書で表現しよう	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、郷土をPRするポスターを制作する教材を設定した。【第五号】 	p.82-83
	[コラム] 良寛の書	<ul style="list-style-type: none"> ○生命の息吹を感じる良寛の手紙を教材とし、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うよう配慮した。【第四号】 	p.84
篆刻・刻字	Ⅰ はじめに 印の多彩な表現を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ○名品に押された印や、日本と中国との篆刻史を示すことで、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うよう配慮した。【第二号】 	p.86-87
	Ⅱ 創作する 姓名印を刻そう Try! 陽刻で表札を作ってみよう 書に会いに、町へ行こう	<ul style="list-style-type: none"> ○姓名印や刻字の表札の創作活動を示すことにより、日常的に見られる印や看板等が書道の分野の一つであることを知り、社会の一員として、男女の平等を意識するとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うよう配慮した。【第三号】 ○日常的に見られる看板等が書道の分野の一つであることを知り、社会の一員として、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うよう配慮した。【第三号】 	p.88-91 p.92
書道史	書の歴史と文化を知ろう 中国・日本書道関係地図	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、三千年にも及ぶ書の歴史その文化を保存研究する美術館を紹介した。【第五号】 	p.94-表3

Ⅲ. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1 全ての生徒にとって使いやすく、わかりやすい教科書を実現しました。

[特別支援教育への配慮]

特別支援教育の専門家から校閲を受け、全ての生徒にとってわかりやすく、使いやすい教科書を実現しました。

- **学習の見通しをもてるように**……学びに集中できるよう、学習内容を焦点化し、授業の流れがひと目でわかる、すっきりとしたデザインを採用しました。
- **図や写真の活用**……わかりにくい筆使いや字形については、写真で示したり図解したりして、視覚的にも理解しやすいように提示しました。

[色覚特性への対応]

カラーユニバーサルデザインの専門家から校閲を受け、全ての生徒にとってわかりやすく、使いやすい教科書を実現しました。

- **配色への配慮**……文字や図表などに複数の色を用いるときは、誰もが明確に識別できる組み合わせであることに、細心の注意を払いました。

2 他教科の学習との関連を図りました。

古文・漢文や歴史の学習、他の芸術分野との関連性にもふれ、総合的に知識と感性を高められるようにしました。

- **古典の理解が深まるように**……臨書教材においては、文字の字形を見るだけでなく、古典の内容が理解できるよう、直訳ではなく、大意で解説しました。
- **コラムの活用**……「遣唐使」や「源氏物語」「料紙加工」という歴史・文学・工芸などの視点から見た書道を、生徒目線でコラムにするなど、総合的な知識として書道の理解が深まるよう配慮しました。

編修趣意書

学習指導要領との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
28 - 61	高等学校	芸術科	書道Ⅱ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
38 光村	書Ⅱ 308	書Ⅱ		

I. 編修上特に意を用いた点や特色

「書Ⅱ」の目標 ▶ 自分の書を広げる。

編集の基本方針 ▶ 感じる・学ぶ・考える

構造上の特徴

1 全体の構成と配列

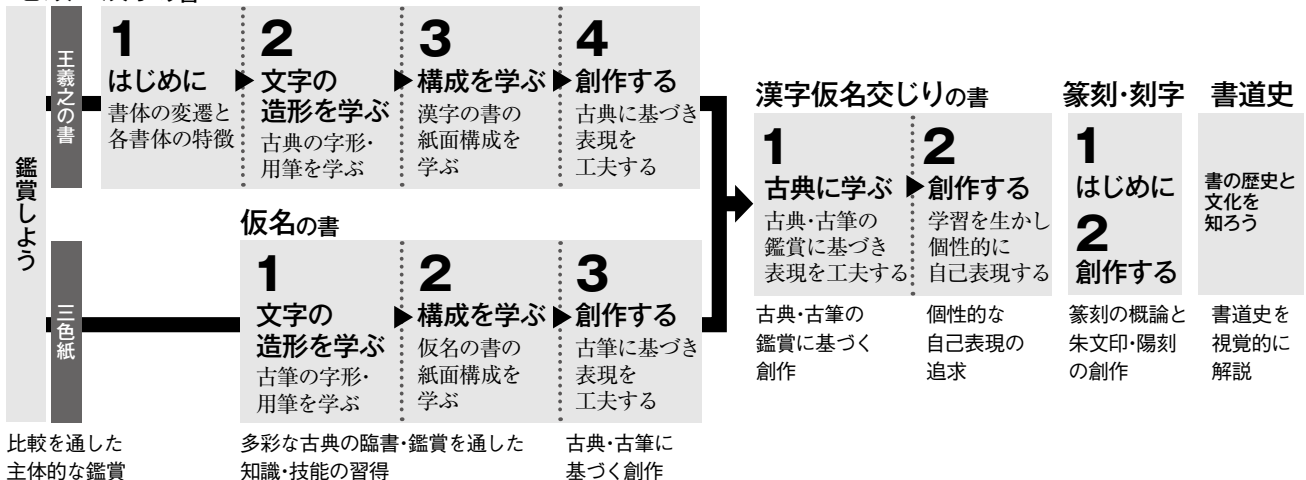
創造的な活動を通して主体的に学ぶことで、感性を高め、書の広がりや可能性を感じ、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばせるよう、次のような工夫をしました。

- 「漢字の書」「仮名の書」では、さまざまな時代・書風の作品を幅広く取り上げることで、生徒の視野を広げ、表現の多様性を実感できるように配慮しました。
- 「漢字仮名交じりの書」は、古典の臨書や鑑賞を通して得た知識・技能を基に個性豊かに自己表現できるよう、「漢字の書」「仮名の書」の後に配列し、「古典に学ぶ」「創作する」の2段階で構成しました。
- 「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」に加え、篆刻・刻字や書の歴史・文化等、学習指導要領に示された指導事項が効果的に展開できるよう構成しました。
- ページを折り返せる中綴じ製本を採用。高精細な古典画像を机上に置いて臨書できます。



導入 ▶ 基礎・基本の習得 ▶ 基礎・基本の活用 ▶ 自分の書を広げる

巻頭 漢字の書



2 各領域の構成

はじめに (漢字の書のみ)

- 書体別に学習を進める「漢字の書」は、書体の変遷を概観したうえで学習に臨めるように配慮しました。

文字の造形を学ぶ

- 「漢字の書」は、書体の成立順に代表的な古典を提示し、各書体の特徴と書風の多様性を併せて理解できるようにしました。
- 「仮名の書」は、連綿や平仮名・変体仮名の調和など、造形上の工夫の理解に適した古筆を提示し、表現による書風の広がりを感じられるようにしました。

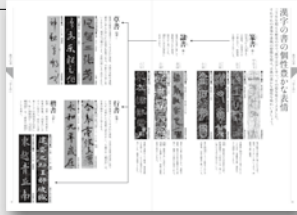
構成を学ぶ

- 用紙の選択と、その形式における効果的な紙面構成を学び、創作に生かせるよう配慮しました。

創作する

- 古典・古筆の臨書・鑑賞を通して習得した文字の造形や紙面構成を生かして創作できるよう、各分野の最後に配列しました。

[漢字の書]



- ▶ 初めて重点的に学ぶ篆・隸・草は、典型的な古典で書体の特徴をつかみ、その上で多様な書風にふられるよう、段階的に配列。
- ▶ 「書道Ⅰ」で代表的古典を学んだ行・楷は、多様性と共に書体の典型美が生み出されるまでの過程を追体験できるよう年代順に配列。

- ▶ 全紙(横)や対聯、長条幅など、多様な形式を提示。



[漢字仮名交じりの書]

古典に学ぶ

- 古典・古筆で習得した知識・技能を生かし、表現を工夫して創作できるようにしました。

創作する

- これまでに習得した知識・技能を総合的に活用し、個性豊かな自己表現を実現できるようにしました。



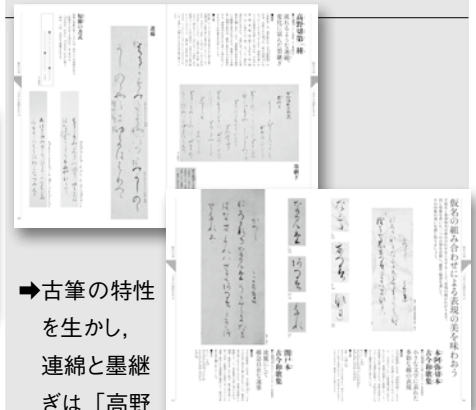
▶ 古典の鑑賞を基にした創作



▶ 古筆の鑑賞を基にした創作

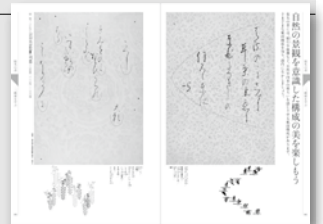


[仮名の書]



- ▶ 古筆の特性を生かし、連綿と墨継ぎは「高野切第一種」を、平仮名・変体仮名の調和は「関戸本古今和歌集」「本阿弥切本古今和歌集」の同じ和歌の比較を通して学習。

- ▶ 古筆を基に、散らし書きの多様性を提示。



※「漢字の書」「仮名の書」のいずれか一方を選択して扱っても差し支えない構成としました。

教材化の配慮と工夫

[教材の選定と配列]

- 古典・古筆の選定においては、生徒の感性や関心を高め、主体的な学習につながることを重視しました。
- 古典・古筆は、諸本の中から最良のものを選び、その書に特有の書風や字形・用筆が見られる部分を精選しました。

領域	書体	主要教材	知識・理解教材及び副次的な扱いの教材
漢字の書	篆書	「泰山刻石」 「石鼓文」「臨石鼓文」「小臣觶犧尊」「甲骨文」	「小克鼎」
	隸書	「乙瑛碑」 「居延漢簡」「曹全碑」「石門頌」	「里耶秦簡」「葉子侯刻石」「礼器碑」
	草書	「十七帖」 「書譜」「草書諸上座帖卷」	「行穰帖」「初月帖」「喪乱帖」「妹至帖」「寒切帖」 「永元器物簿編簡」「離洛帖」「恩命帖」「国申文帖」
	行書	「集王聖教序」「温泉銘」 「祭姪文稿」「争坐位文稿」「祭伯文稿」	「姨母帖」「奉橘帖」「孔侍中帖」「蘭亭序」(張金界奴本/神龍半印本) 「李柏尺牘稿」「黃州寒食詩卷」「松風閣詩卷」「虹峯詩卷」
	楷書	「薦季直表」「爨寶子碑」「始平公造像記」 「美人董氏墓誌銘」「孟法師碑」	「黃庭經」「九成宮醴泉銘」「孫秋生造像記」「北海王元詳造像記」 「牛橛造像記」「楊大眼造像記」「魏靈藏造像記」「比丘惠感造像記」 「賀蘭汗造像記」「高樹解伯都等造像記」「孔子廟堂碑」「多宝塔碑」
仮名の書	「高野切第一種」 「本阿弥切本古今和歌集」「関戸本古今和歌集」 「高野切第二種」「針切」「香紙切」 「元永本古今和歌集」「継色紙」	「継色紙(5点)」「寸松庵色紙(5点)」「升色紙(5点)」 「源氏物語」「大鏡」「蓬萊切」	
漢字仮名交じりの書	金子鷗亭の書、良寛の書		

[生徒の理解を深める工夫]

- 発達段階に即して、わかりやすく解説しました。表記は統一し、常用外漢字や専門用語には読み方を付しました。
- 基本の教材は次のような要素で構成しました。創作や篆刻・刻字は、制作の手順を写真とともに丁寧に示しました。

半紙臨書例

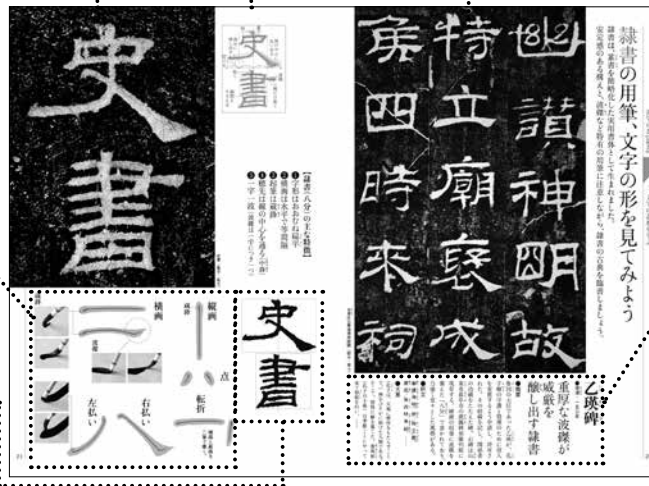
半紙二字の臨書例と模式図を示し、字形と用筆、配字のポイントを示しました。

用筆の特徴

各書体における基本点画の用筆を、写真や骨書きを用いてわかりやすく示しました。

字形の特徴

各書体の字形の特徴を、模式図で視覚的に示しました。



原寸古典

書体や書風がわかりやすく表れた部分を、原寸で掲載しました。

概要・キャッチコピー・

積文・大意

古典の特色を直感的につかめるキャッチコピーを設け、書風の違いを実感できるように配慮しました。

[紙面構成上の工夫]

- 鮮明な画像と臨場感あふれるレイアウトで、書の美を存分に伝えます。
- 各単元に中扉やインデックスを付して検索性を高め、生徒が教科書を主体的に活用できるよう配慮しました。

[生徒の興味・関心を高める工夫]

- 書の歴史や文化への理解を深め、生涯にわたり書を愛好していくための基礎となるコラムを随所に設けました。

漢字の書	「何のために書くのか? (書の果たしてきた歴史的役割)」「名品になった詫び状 (藤原佐理の書)」 「北宋の三大家」「タイムスリップ書道史 (日中の書の交流)」「日本文学に登場する能書」
仮名の書	「伝称筆者と古筆」「やってみよう『墨流し』『ぼかし染め』」
漢字仮名交じりの書	「良寛の書」
篆刻・刻字	「書に会いに、町へ行こう (町で見られる刻字)」

Ⅱ. 対照表

	図書の構成・内容	該当箇所	学習指導要領の内容		
			A表現	B鑑賞	内容の取扱い
巻頭	王羲之の書を鑑賞しよう	表2-p.2		ア・イ・ウ	(4)
	三色紙を鑑賞しよう	p.3-5		ア・イ・ウ	(4)
漢字の書	1 はじめに				
	漢字の書の個性豊かな表情	p.8-9		イ・ウ	(1)(4)
	篆・隸・草・楷を比べてみよう	p.10-11	(2)ア・イ	ア	(1)(2)(3)(4)
	2 文字の造形を学ぶ				
	【篆書】 篆書の用筆, 文字の形を見てみよう 「泰山刻石」	p.12-13	(2)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	篆書の多彩な表情を捉えよう 「石鼓文」「臨石鼓文」 「小臣觶尊」「甲骨文」	p.14-17	(2)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	〈コラム〉 何のために書くのか?	p.18-19		イ・ウ	(1)(4)
	【隸書】 隸書の用筆, 文字の形を見てみよう 「乙瑛碑」	p.20-21	(2)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	隸書の多彩な表情を捉えよう 「居延漢簡」「曹全碑」「石門頌」	p.22-25	(2)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	【草書】 草書の用筆, 文字の形を見てみよう 「十七帖」	p.26-27	(2)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	草書の多彩な表情を捉えよう 「書譜」「草書諸上座帖卷」	p.28-29	(2)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	〈コラム〉 名品になった詫び状	p.30-31		ア・イ・ウ	(1)(4)
	【行書】 行書の多彩な表情を捉えよう 「集王聖教序」「温泉銘」	p.32-33	(2)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	感情が筆意に表れた顔真卿の三稿 「祭姪文稿」「争坐位文稿」「祭伯文稿」	p.34-35	(2)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	〈コラム〉 北宋の三大家	p.36-37		ア・イ・ウ	(1)(4)
	【楷書】 楷書の多彩な表情を捉えよう 「薦季直表」「爨宝子碑」 「始平公造像記」 「美人董氏墓誌銘」「孟法師碑」	p.38-43	(2)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	〈コラム〉 タイムスリップ書道史	p.44-45		イ・ウ	(1)(4)
	3 構成を学ぶ				
	芸術としての書を味わおう	p.46-47	(2)ア・イ・ウ	ア・イ	(1)(2)(3)(4)
	4 創作する				
座右の銘を書こう	p.48-49	(2)ア・イ・ウ・エ	ア	(1)(2)(3)(4)	
〈コラム〉 日本文学に登場する能書	p.50		イ・ウ	(1)(4)	

	図書の構成・内容	該当箇所	学習指導要領の内容		
			A表現	B鑑賞	内容の取扱い
仮名の書	1 文字の造形を学ぶ				
	「高野切第一種」	p.52-55	(3)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	仮名の組み合わせによる表現の美を味わおう 「本阿弥切本古今和歌集」「関戸本古今和歌集」	p.56-57	(3)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	平仮名・変体仮名一覧	p.58-59	(3)ア・イ	ア・イ	(1)(2)(3)(4)
	古筆の多彩な表現を楽しもう 「高野切第二種」「針切」「香紙切」	p.60-61	(3)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	〈コラム〉 伝称筆者と古筆	p.62-63		イ・ウ	(1)(4)
	2 構成を学ぶ				
	自然の景観を意識した構成の美を楽しもう 「元永本古今和歌集」	p.64-65	(3)ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	散らし書きによる空間の美を味わおう 「継色紙」	p.66-67	(3)ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)(4)
	用具・用材による表現の変化を楽しもう	p.68-69	(3)イ・ウ	ア・イ	(1)(2)(3)(4)
	3 創作する				
	百人一首を書こう	p.70-71	(3)ア・イ・ウ・エ	ア	(1)(2)(3)(4)
〈コラム〉 やってみよう「墨流し」「ぼかし染め」	p.72		ア・イ	(1)(4)	
漢字仮名交じりの書	1 古典に学ぶ				
	古典の書風を生かして書こう 参考古典 「薦季直表」「松風閣詩巻」 「草書諸上座帖巻」「発展 居延漢簡」 「高野切第二種」「針切」	p.74-81	(1)ア・イ・ウ・エ	ア・イ	(2)(4)
	2 創作する				
	ふるさとを書で表現しよう	p.82-83	(1)ア・ウ・エ	ア・イ・ウ	(2)(4)
	〈コラム〉 良寛の書	p.84		ア・イ	(4)
篆刻・刻字	1 はじめに				
	印の多彩な表現を楽しむ	p.86-87		ア・イ・ウ	(4)
	2 創作する				
	姓名印を刻そう	p.88-89	(2)ア・イ・ウ・エ	ア	(2)(3)(4)
	Try! 陽刻で表札を作ってみよう	p.90-91	(2)ア・イ・ウ・エ	ア	(2)(3)(4)
	〈コラム〉 書に会いに、町へ行こう	p.92		ア・イ・ウ	(4)
書道史	書の歴史と文化を知ろう	p.94-101		イ・ウ	(4)
	中国・日本書道関係地図	p.102-表3		イ・ウ	(4)

編修趣意書

発展的な学習内容の記述

受理番号	学校	教科	種目	学年
28 - 61	高等学校	芸術科	書道Ⅱ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
38 光村	書Ⅱ 308	書Ⅱ		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項	ページ数
79	漢字仮名交じりの書 一、古典に学ぶ 鷹揚さを求めて	1	高等学校学習指導要領 芸術科 書道Ⅲ 3 内容 A 表現 (1) 漢字仮名交じりの書 イ 主体的な構想に基づく個性的、 創造的な表現を追求すること。 と関連する。	1
			合計	1

〔「類型」欄の分類について〕

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容